中学3年生「高志学」シンガポール研修

令和８年１１月３日（火）から７日（土）、３泊５日でシンガポール研修を行いました。十期生が掲げた研修テーマは『Summit（頂上・首脳会議)』。これまで積み重ねてきた英語や高志学などの学びの集大成として、その成果を最大限に発揮して、最高の研修にしたい。みんなの知識や考えを持ち寄り、お互いに意見を交わしながら、十期生全員で充実したシンガポール研修を創り上げたい。これら２つの思いが達成できた充実した研修となりました。

シンガポール国立大学

２日目は、世界トップクラスを誇るシンガポール国立大学（NUS）での研修からスタートしました。国内に公立大学がわずか６校しかないシンガポールでは、国を挙げた教育投資のもと、世界中から優秀で熱意あふれる学生が集まっています。世界的な人気を誇るキャンパスのため、今年は半日のコースとなりましたが、生徒たちは一瞬一瞬に集中し、非常に濃密な時間を過ごすことができました。

今回のテーマは「多文化共生」です。学習班による事前学習の成果もあり、講師のユーモアあふれる講義やダンス・ゲーム等の体験を通して、４つの文化が互いを尊重し合い生活する工夫を深く学びました。後半は 13 グループに分かれ、現地大学生とのディスカッションを実施しました。異文化理解のルールや日常的な課題について英語で質問し、日本の現状も積極的に共有しました。最初は緊張していた生徒たちも、自らの言葉で思いを伝えた体験から大きな自信を得たようです。広大なキャンパスを前に、将来「海外で学ぶ」という新たな選択肢に思いをはせる生徒の姿も印象的でした。







シンガポール国立大学附属数理学校

２日目の午後は、シンガポール国立大学附属数理学校（NUSH）を訪問し、昨年度からオンライン交流をしている生徒たちと高志中企画、NUSH 企画、キャンパスツアーの活動を通して交流を深めました。高志中企画では、学校や福井の特色をプレゼンテーションで紹介した後、「なんじゃもんじゃ」や「ITO」のゲームを一緒に楽しみながら大いに盛り上がりました。NUSH 企画では、切り絵の体験をしたり、けん玉やカードゲームをしたりしました。NUSH の生徒に「一緒にやろう」と声をかけて、積極的に交流しようとする生徒の姿も見られました。また、「頑丈な橋をつくる」企画では、クループ対抗で、割りばしや輪ゴムを使って、試行錯誤しながら協力して取り組んでいました。緊張していた生徒たちも、次第に打ち解け、楽しんで活動することができました。振り返りで、「もっと英語をうまく話したい」と話す生徒がいるなど、同世代の生徒との交流はとてもよい刺激になったようです。

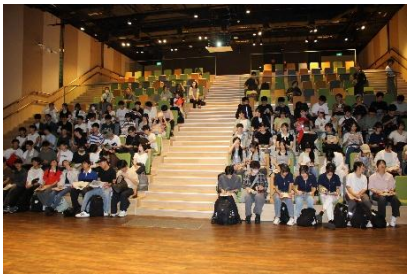




シンガポール動物園

３日目に訪問したシンガポール動物園では、まず園内のスタッフから野生動物の保護や持続可能な環境保全に関する取り組みについての講義を受けました。生徒たちは真剣な表情で耳を傾け、環境問題と動物保護のつながりについて学びを深めていました。講義の後は、いよいよ楽しみにしていた園内の見学です。移動の途中、熱帯特有の激しいスコールの洗礼を受ける場面もありましたが、それも現地ならではの忘れられない体験となりました。生き生きとした植物が茂る中、動物たちの自然な生態を引き出す工夫が施された展示を巡り、生徒たちは目を輝かせながら観察していました。

お昼ご飯は、豊かな自然に囲まれたオープンエアのレストランでシンガポール料理を堪能しました。近くではオランウータンがのびのびと過ごし、その力強い鳴き声を聞きながら、足元にはクジャクがふらりと遊びにやってくるという非常に賑やかな環境です。熱帯の自然を五感で感じながら、みんなで笑顔を交わす贅沢なランチタイムとなりました。





コース別研修(ナショナルギャラリー)

超高層ビルや世界的に有名な観光スポットが集まる中心地ベイサイドエリアにあるナショナルギャラリー。歴史的建造物である「旧市庁舎」と「旧最高裁判所」を新改装して完成した美術館の外観に圧倒されながら、館内へ入館しました。19 世紀から現代までの東南アジアの美術品 8,000 点以上が、所蔵されており、２時間の制限時間で、「問い」の答え探しを行っていました。常設展「Singapore Stories」では、時代ごとに移り変わる、人々の暮らし、社会の変遷が、多彩な表現で描き出されていました。

中でも、特に心に刺さったのは「鎖につないだ椅子をまるでペットを散歩させるようにシンガポールの街中を引いて歩く女性」の映像作品（1999 年制作）でした。芸術に対する規制や社会による規制に対する抗議を目的としたパフォーマンスを通して、歴史的な背景について考えさせられました。「独立」「自由」「支配」「ジェンダー」「階級」「労働」などを訴える様々な作品を目にするたびに、日本の日常では意識することが少ない平和の有難さを痛感させられました。






コース別研修（シンガポール国立博物館）

シンガポール国立博物館は 1887 年に建てられた国内最古の博物館であり、歴史的な建造物と近代的な展示空間が調和した美しい施設です。白を基調とした優雅な空間は開放感があり、歴史ある建物ならではの重厚さを感じさせられました。一方で展示方法には映像やデジタル技術が活用されており、伝統と最新技術が融合した博物館であることが印象的でした。常設展示では、シンガポールが小さな港町から多民族国家として発展してきた歴史を学ぶことができました。マレー系、中国系、インド系など多様な民族が共存しながら国づくりを進めてきた過程や、イギリス統治時代、日本占領期、独立後の急速な経済成長について詳しく紹介されていました。現在の近代的な街並みの背景には、多くの人々の努力と工夫があったことを知ることができました。単に展示を見るだけではなく、シンガポールの歴史や文化、人々の暮らしを知る貴重な経験となり、生徒たちは時間いっぱい英語で書かれた説明を読み解きながら自身の問いの答えを探していました。







コース別研修（サイエンスセンター）

「Science Centre Singapore」は、1,000 点近くの多彩な展示物と数多くの体験型アクティビティを備え、物理・人体・環境・宇宙など、多様な分野の科学を五感で実感できる施設です。「学びに終わりはない」という理念のもと、子どもから大人までを夢中にさせるこの場所は、シンガポールの科学技術教育を力強くリードしています。生徒たちも足を踏み入れた瞬間から、科学の持つ面白さと不思議さに一気に引き込まれました。入館後に、まず生徒たちを迎えたのは、錯視をテーマにした展示「THE MIND'S EYE」でした。だまし絵や錯覚を利用した仕掛けの数々に、生徒たちは中学 1 年の国語で学習した『ちょっと立ち止まって』の内容を自然と思い出し、知識と体験を結びつけながら見入っていました。教科書で学んだ理論が目の前の体験としてつながる、質の高い学びの瞬間となりました。

その後は、それぞれの興味・関心に合わせて館内を探索しました。恐怖という感情のメカニズムを科学的に解き明かす「Phobia : The Science of Fear」や、目の前で巨大な炎の渦が巻き上がる「Fire Tornado Show」、光と鏡が織りなす幻想的な迷路「Light Fantastic Mirror Maze」など多くの体験型の展示を楽しんでいました。

中でも特に大きな刺激を受けたのが、AI やロボティクスに関する展示です。館内を自在に歩き回り、来場者とジェスチャーでコミュニケーションをとるヒューマノイドロボットや、人間の音声指示を理解して繊細な手つきでキャンバスに絵を描く精巧なロボットなど、テクノロジーの最前線を体感。SF の世界だと思っていた技術が身近なリアルになりつつある現実に、生徒たちは未来の社会とロボットのあり方について思いを馳せているようでした。教科書の中にある知識が体験として実感へと変わる、生徒たちにとって刺激的で密度の濃い時間となりました。



B&S プログラム　市内班別研修

４日目の市内班別研修では、班ごとにわかれて現地大学生の案内のもと、シンガポール各地の名所や有名な食べ物の魅力を味わい、見聞を広げることができました。ブギスストリートやアラブストリートでは、サルタンモスクなど現地の寺院の外観を見学し、賑やかな通りで昼食や買い物を楽しみました。リトルインディアではお香やスパイスの香りと、色鮮やかな街並みに異国情緒を感じることができました。チャイナタウンでは賑やかな街並みを巡り、一つの国の中に多様な民族や宗教が共存する多民族国家のエネルギーを肌で実感していました。移動中の MRT（地下鉄）や徒歩の際には、大学生が優しく英語で話しかけて案内してくれたおかげで、生徒たちにとって英語を使う楽しさや自分の考えを伝える難しさを学ぶ貴重な機会となりました。市内班別研修を通じて、生徒は班のメンバーと協力したり、現地大学生と交流したりしながら多様な文化に触れることができ、グローバルな視野を広げるための経験を積むことができました。







ガーデンズ・バイ・ザ・ベイ研修

この施設は、広大な敷地の中に未来的な植物園や温室が整備されており、「ガーデンシティ」を目指すシンガポールの象徴的な場所となっています。園内に入ると、まず目を引いたのは巨大な人工樹木「スーパーツリー・グローブ」でした。高さ数十メートルにも及ぶ特徴的な樹木が立ち並び、その独創的な景観はまるで未来都市のようでした。植物と最先端技術が融合したデザインは大変印象的であり、シンガポールの先進性を感じることができました。続いて温室施設を見学しました。世界各地の植物が生育環境ごとに展示されており、普段目にすることのない珍しい植物や花々を間近で観察することができました。館内は快適な環境が保たれており、植物の特徴や生育条件についても分かりやすく紹介されていたため、自然科学への理解を深めることができました。また、環境保全や持続可能な都市づくりに関する展示も多く見られ、限られた国土の中で緑地を確保し、人と自然が共生する都市空間を創出していました。特に、環境技術を活用しながら都市の発展と自然保護を両立させようとする姿勢が印象的でした。





